

2022年3月期 第3四半期 連結
決算ハイライト (記者会見用)

2022年2月4日
株式会社 **クレスコ**

① 連結決算のポイント





1.1. 売上高・利益

[単位：百万円未満切捨]

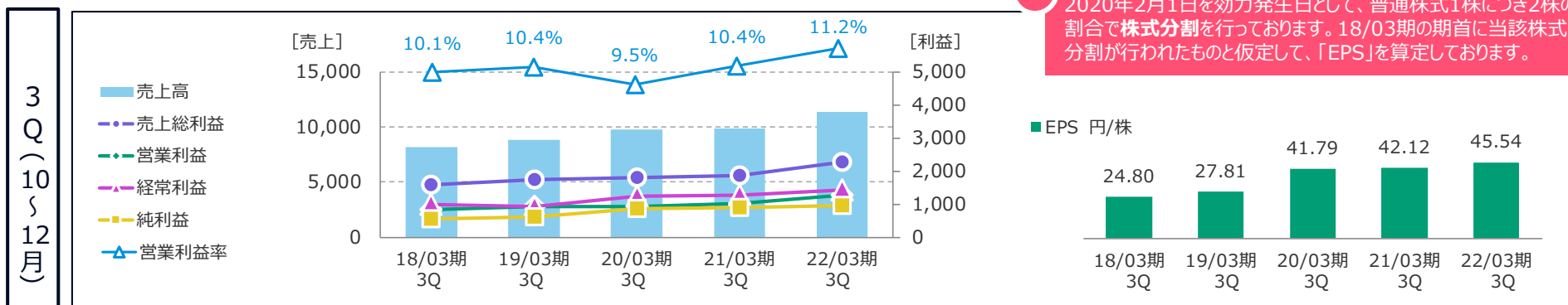
- 経済活動の正常化に向けた動きやデジタル変革を背景に、顧客のIT投資は、順調に増加。
- 旅行や空輸関連はコロナの影響が続くも、主要顧客を中心に売上が増加。高稼働が継続。
- 売上高は11.7%増収。営業利益は37.9%増益、過去最高益を更新。
- 増収効果や販管費の未消化等により、営業利益率は10.2% (前年同期8.2%)で、中計目標値「10%」を維持。

■ 売上高	… 33億88百万円の増収(前年同期比 11.7%増)	■ 経常利益	… 5億18百万円の増益(前年同期比 16.6%増)
■ 営業利益	… 9億04百万円の増益(前年同期比 37.9%増)	■ 当期純利益	… 3億71百万円の増益(前年同期比 16.9%増)

3Q累計		20/03期		21/03期		22/03期		前年同期比	対通期進捗率	通期業績予想	
		売上高	利益率	売上高	利益率	売上高	利益率			22/03期 21/5/10 予想	前年同期比
	売上高	28,957		29,018		32,406		111.7%	76.4%	42,400	106.8%
	売上総利益	5,379	(18.6%)	5,127	(17.7%)	6,348	(19.6%)	123.8%			
	営業利益	2,653	(9.2%)	2,388	(8.2%)	3,292	(10.2%)	137.9%	85.5%	3,850	(9.1%) 110.5%
	経常利益	3,141	(10.8%)	3,123	(10.8%)	3,641	(11.2%)	116.6%	86.7%	4,200	(9.9%) 102.4%
	純利益	2,003	(6.9%)	2,193	(7.6%)	2,564	(7.9%)	116.9%	90.0%	2,850	(6.7%) 108.2%
	注 EPS 円/株	94.09		104.46		121.96				注 135.45	

[注] () 内の数字は各々の利益率を表します。「純利益」は「親会社株主に帰属する四半期純利益」です。

注 2020年2月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。18/03期の期首に当該株式分割が行われたものと仮定して、「EPS」を算定しております。

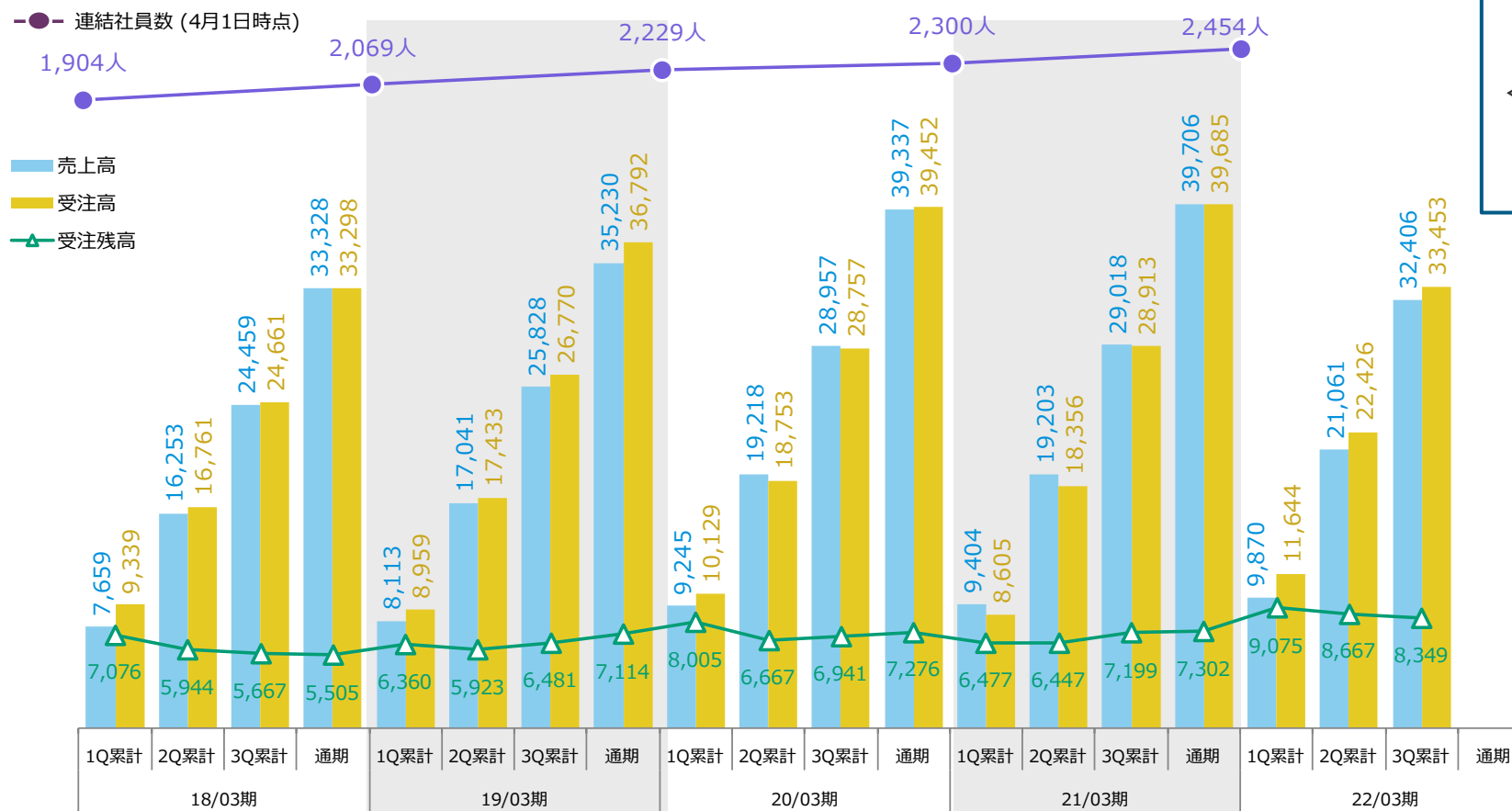




1.2. 受注高・受注残高

[単位：百万円未満切捨]

- 受注高と受注残高は、新型コロナウイルス禍が続く中で業種別に濃淡はあるものの、引き続き、順調な伸び。
- 受注状況は、2020年度のIT投資抑制の反動、経済活動正常化に向けた動き、デジタル変革が後押し。



<受注高>
前年通期累計比
115.7 %

<受注残高>
前年同期比
116.0 %



1.3. セグメント別売上高・利益①

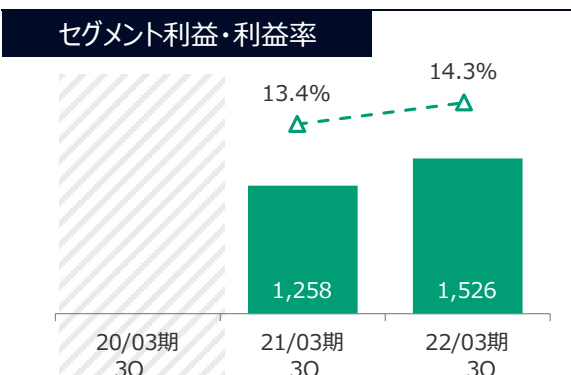
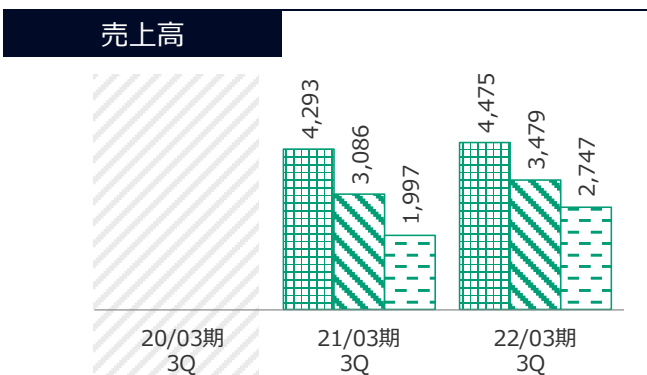
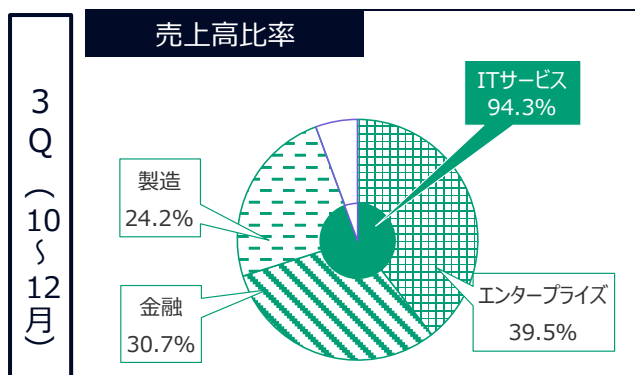
[単位：百万円未満切捨]

ITサービス事業

- 売上高は、309億72百万円。「エンタープライズ」「金融」「製造」の全サブセグメントが伸長し、10.3%増収。
- セグメント利益は、売上高増加や生産性向上、不採算プロジェクトの極小化等により、29.4%増益。

- エンタープライズ … 「人材紹介・人材派遣」「運輸」「旅行・ホテル」「建設・不動産」の受注が回復し、6.9%増収。(前年同期比 8億68百万円増収)
- 金融 … 「保険」の大型案件受注や証券・クレジットカード等「その他」の案件増加により、10.1%増収。(前年同期比 9億20百万円増収)
- 製造 … 「機械・エレクトロニクス」の案件増加や子会社OECの連結効果により、17.3%の増収。(前年同期比 11億11百万円増収)

		20/03期	21/03期	22/03期	前年同期比
3 Q 累 計	IT サービス 売上高	エンタープライズ	12,557	13,425	106.9%
		金融	9,083	10,003	110.1%
		製造	6,431	7,542	117.3%
	セグメント利益(率)	28,072	30,972	30,972	110.3%
		3,239 (11.5%)	4,192 (13.5%)	4,192 (13.5%)	129.4%



[注]2020年3月期は、新セグメントで数値算出しておりません。



[単位：百万円未満切捨]

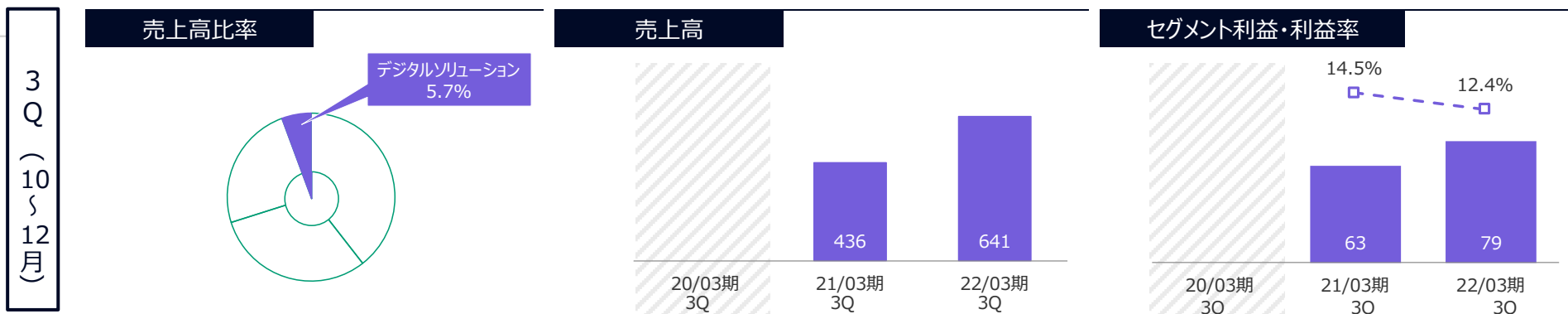
デジタルソリューション事業

- 売上高は、14億34百万円。クラウドサービス「Creage(クレーージュ)」やRPAライセンスの販売増加の他、子会社における大型ソリューション案件の受注により、51.7%増収。
- セグメント利益は、上記の増収効果により、42.0%増益。

<主な製品・サービス名>

- Creage：クラウド関連サービス
- UiPath：RPA関連サービス
- アノテーション：AI関連サービス
- 教育・セミナー：AI、クラウド、RPAなど

3Q累計	デジタルソリューション	20/03期		21/03期		22/03期		前年同期比
		売上高	セグメント利益(率)	売上高	セグメント利益(率)	売上高	セグメント利益(率)	
	売上高			945		1,434		151.7%
	セグメント利益(率)			75 (8.0%)		107 (7.5%)		142.0%



[注]2020年3月期は、新セグメントで数値算出しておりません。

② 今期の見通し



新型コロナウイルス禍の影響は、限定的。経済活動の正常化に向けた動きが牽引。
躊躇なきデジタル変革(DX)の推進により、システム開発の需要が一気に加速。

- 新型コロナウイルスは、オミクロン株を中心とする新規感染者が増加傾向にあるものの、アフターコロナ・ウィズコロナを踏まえ、DX推進は加速の様相で、引き続き**受注は増加傾向**。
- ワクチンの追加接種を含む感染対策やニューノーマルが定着し、**事業活動への支障は無し**。
- 引き合い・受注・業務量の増加により、**人材の育成・確保や、開発体制の強化が喫緊の課題**。

【ご参考： 景気判断の調査等】

2022年1月Quick短観 [2022年1月19日発表]

業況判断DIは、1月の製造業はプラス25(6ポイント改善) 2カ月ぶりの改善、]全産業はプラス24(5ポイント改善)。

1月特別調査： 2022年の経営リスクは「コロナ再拡大」が過半数、インフレや供給網にも懸念。

政府による1月の月例経済報告 [2022年1月18日発表]

「景気は、新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が徐々に緩和される中で、このところ持ち直しの動きがみられる。」旨の判断。

2021年12月の日銀短観 [2021年12月13日発表]

代表的な指標の大企業・製造業の業況判断指数(DI)が、前回9月調査と変わらず“プラス18”となり、景況感の順調な回復が継続。

また、大企業・非製造業は、7ポイント上昇の“プラス9”となり、6四半期連続で改善。

IDC Japanの国内ITサービス市場予測(抜粋&要約) [2021年10月5日発表]

COVID-19の感染拡大によってもたらされた外部環境の変化に対応するため、企業がDXに本格的に取り組む姿勢は強まっている。

2022年以降は、徐々に成長率は鈍化するものの、レガシーシステムの刷新／更新需要、企業によるDX投資の本格化が同市場の成長を支える。

IDCでは、2020年～2025年の年間平均成長率は2.4%で推移すると予測。



2.2. 新型コロナウイルスへの対応

- クレスコグループで連携し、関係者の感染状況の確認や情報収集、各種施策の検討および運用を継続中。
- お取引先様も含めたテレワークの推進。在宅勤務、リモート開発の継続。
- 政府や自治体の要請(緊急事態宣言を含む)に準じた施策を適宜アップデートし、社内に徹底。
- 在宅勤務が主となる社員には在宅勤務にかかる光熱費・通信費等の補助のため「在宅勤務手当」を支給し、通勤が主となる社員には通勤等の心身負担軽減のため、「通勤者支援手当」を支給。
- **新型コロナワクチン接種時および副反応時の「特別休暇制度」を導入。**
新型コロナワクチンの**3回目接種に対応し、「ワクチン休暇」の日数を追加付与。**
就業時間中に接種した場合は、「みなし勤務」とする柔軟な措置も適用。
新型コロナウイルス感染により不就業となる場合は、失効した年次有給休暇の利用許容。
- **多様な働き方の実現にむけたDX推進、ワークプレイスの整備**
社内決裁書類等の電子化拡大、電子ワークフロー推進。
ワークスタイル変革を見据えたオフィススペース、レイアウトの変更。
- 「新型コロナウイルスに関する当社の対応について」は、ホームページで随時更新。

【基本対応方針】

- (1) 従業員等およびその家族の生命の安全・健康を確保する。
- (2) 事業に与える被害の最小化を図る。
- (3) お客様・取引先・株主等に悪影響を及ぼさない。
- (4) 地域経済の早期安定化へ貢献する。
- (5) 各種対応の際は、常に人道面で配慮する。

2.3. 連結業績の見通し

- 新型コロナウイルス禍によるクレスコグループの業績への影響は 『**精緻に把握することが困難**』。
- 現時点における**入手可能かつ合理的な情報による判断**および、**現状の認識**による見通し。
 - ① **新型コロナウイルス禍の収束は当面難しいが、影響は限定的であり、事業に大きな支障はない。**
 - ・ 9月末における緊急事態宣言およびまん延防止等重点措置の全面解除以降、追加のワクチン接種を含む感染の予防対策に重点を置き、できるだけ制約のない日常生活と経済活動に戻していくための取組みが始まっている。
 - ・ 12月に入り、オミクロン株の新規感染者数が増加傾向となり、年明けの1月には、第6波に突入。新型コロナウイルス禍の収束は当面難しいこと、また、第6波や新たな変異株の発生・流行に起因する景気の下振れリスクは依然拭い切れないことに変わりないが、オンラインや対面による営業活動やリモート開発、在宅勤務も常態化しており、影響は限定的で事業への大きな支障はない。
 - ・ 2021年度からの新ビジョン「CRESCO Group Ambition 2030」と「中期経営計画2023」に沿って、クレスコグループ全体の事業ポートフォリオの最適化に努め、コア事業であるITサービスや新たな価値を提供するデジタルソリューションを積極的に展開し、事業目標の達成と価値創出に取り組むことが必要、と認識。
 - ② **景況感**は、業種・業態により濃淡はあるものの、**IT投資は改善傾向であり、受注は増加する。**
 - ・ 経済正常化に向けた動きが活発化する中、景況感は業種・業態により濃淡はあるものの、順調に回復し、IT投資も改善傾向。
加えて、新型コロナウイルス禍がもたらしたニューノーマルへの対応ニーズ増大により、新たな事業価値の創出や競争力強化、イノベーションを実現する「デジタル変革」に大きく軸足が移り、今後も需要は更に加速する見込み。
 - ・ 2021年度は、「DX認定事業者」として、環境の変化に即した様々なサービスを創出する。多様化、複雑化するニーズをしっかりと取り込み、自らも競争優位性を確保するイノベーションを実現し、着実な受注の獲得に努めることが必要、と認識。



2.4. 連結業績予想

[単位：百万円未満切捨]

- 2021年5月10日発表の連結業績予想に、変更なし。
- 業績予想における新型コロナウイルス禍の状況等を含む仮定については、現時点における入手可能かつ合理的な情報による判断に基づいているが、引き続き動向を注視。
- 今後、仮定の誤りにより開示すべき事象が発生した場合、速やかに公表。

	21/03期					22/03期		
	20/5/8 予想	前年 同期比	実績	前年 同期比	達成率	21/5/10 予想	前年 同期比	
通 期	売上高	40,000	101.7%	39,706	100.9%	99.3%	42,400	106.8%
	売上総利益			7,199 (18.1%)	99.3%			
	営業利益	3,400 (8.5%)	95.6%	3,484 (8.8%)	98.0%	102.5%	3,850 (9.1%)	110.5%
	経常利益	3,600 (9.0%)	97.0%	4,101 (10.3%)	110.5%	113.9%	4,200 (9.9%)	102.4%
	純利益	2,450 (6.1%)	101.2%	2,634 (6.6%)	108.8%	107.5%	2,850 (6.7%)	108.2%
	EPS 円/株	116.67		125.43			135.45	

【注】 () 内の数字は各々の利益率を表します。「純利益」は「親会社に帰属する当期純利益」です。



2.5. 連結配当予想

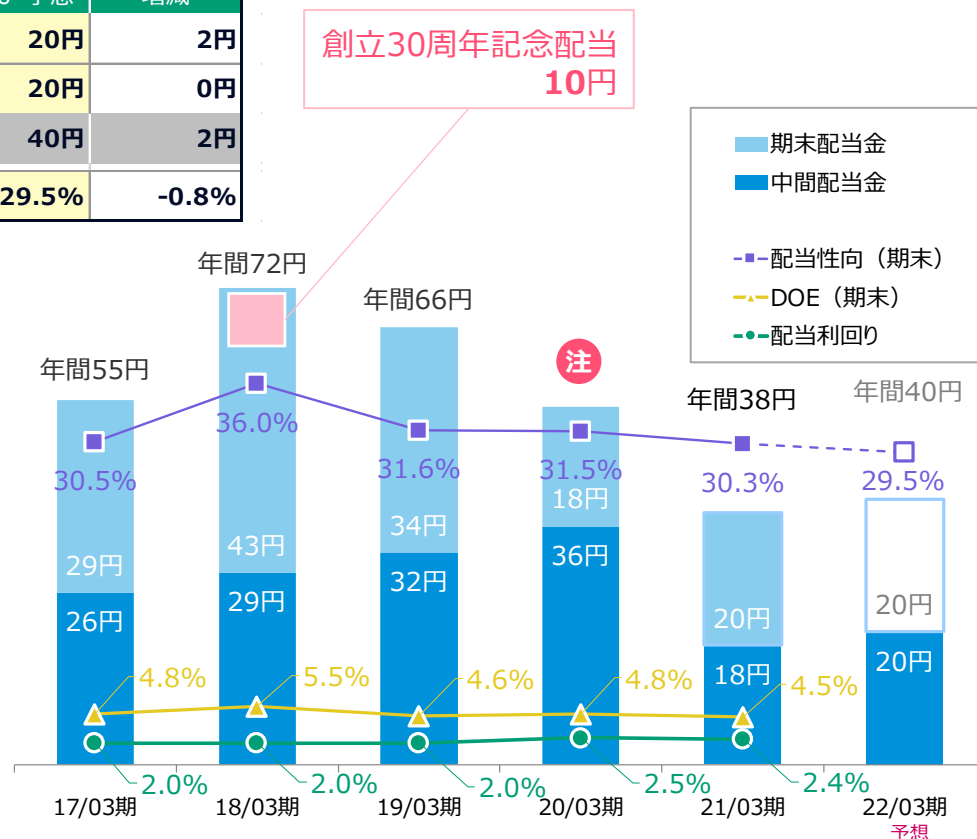
- 2021年5月10日に発表した配当予想に、変更なし。

	20/03期	21/03期	22/03期		
	実績	実績	実績	21/5/10 予想	増減
中間	36円	18円	20円	20円	2円
期末	注 18円	20円	-	20円	0円
年間	-	38円	-	40円	2円
配当性向	31.5%	30.3%	-	29.5%	-0.8%
配当利回り	2.5%	2.4%	-	-	-
DOE	4.8%	4.5%	-	-	-
配当金の総額	750百万円	798百万円	-	-	-

[配当金の総額：百万円未満切捨]

株主還元方針

- ▶ 当社は株主のみなさまに対する利益還元を経営の重要課題と位置づけ、株主資本の充実と長期的な安定収益力を維持するとともに、業績に裏付けられた適正な利益配分を維持することを基本方針としております。
- ▶ 特段の株主優待は行っておりません。
- ▶ 配当に関しましては、原則、**連結経常利益**をもとに、特別損益を零とした場合に算出される**親会社に帰属する当期純利益**の30%相当を目標に継続的に実現することを目指してまいります。



注 2020年2月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。

- 17/03期中間～20/3期中間は分割前の実際の配当金の額を記載しております。
- 20/03期の合計は、株式分割の実施により単純計算ができないため記載しておりません。

③ 連結中期経営計画



3.1. 基本戦略・重点戦略

公表用資料から抜粋

経営ビジョン実現に向けて2021年から2023年までの3か年の中期経営計画「中計2023」を策定いたしました。「中計2023」ではコアビジネス推進のための**3つの基本戦略**にて**ビジネスの土台を強化**しつつ、新たな**ビジネスの柱**を生み出すための**3つの重点戦略**に取り組んでまいります。

重点戦略 新たなビジネスの柱を生み出すために

デジタルソリューションの強化

- デジタルソリューション売上の倍増
- 新規デジタルソリューションの拡充

機動的経営の進化

- 「DX銘柄」認定の獲得
- グループ連携の強化による事業拡大

人間中心経営の深化

- 「健康経営優良法人」上位企業へ
- 次世代人財育成の充実

基本戦略 コアビジネス領域をより強固なものに

ITサービスの拡大

- エンタープライズ/金融/製造セグメントごとに定めた施策に基づく事業拡大

品質の強化

- 新技術/ニーズ変化に対応したマネジメントプロセスの継続的な改善と実践

技術の強化

- 新技術および重点技術(AI、クラウド、アジャイル)によるビジネス拡大

クレスコはESGを企業が認識すべき「社会から企業への期待」と捉え、取り組んでまいります
「ESGに対する当社の考えと取り組み状況」：https://www.cresco.co.jp/ir/group_business/esg.html



重点戦略 新たなビジネスの柱を生み出すために

デジタルソリューションの強化	1Q	<ul style="list-style-type: none"> デジタルソリューション推進部門として、「ビジネスイネーブルメントサービスユニット」を設置 クレスコのデジタルソリューションブランドの再整理を開始
	2Q	<ul style="list-style-type: none"> デジタルソリューションサイトを公開 クラウドマネージドサービスを、Azure対応にバージョンアップ
	3Q	<ul style="list-style-type: none"> IaaS型クラウドサービス「SOROBAN」の販売代理店契約を締結 2年連続で、当社社員が「UiPath Japan MVP 2021」に認定 「UiPath Reboot Work Festival Japan 2021」でブース出展と講演を実施
機動的経営の深化	1Q	<ul style="list-style-type: none"> 経済産業省のDX認定制度「DX認定事業者」の認定を取得 「株式会社OEC」社を子会社化
	2Q	—
	3Q	<ul style="list-style-type: none"> 東証新市場区分「プライム市場」を選択および決定 2022年4月社長交代を発表
人間中心経営の進化	1Q	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍における働き方改革を推進(テレワーク推進、ワークプレイス整備、ワクチン休暇の導入) 認定試験受験推進企業として「2020年度優秀受験団体」表彰を受賞
	2Q	<ul style="list-style-type: none"> 「ニューノーマルな交流拠点」として、多目的スタジオを設置 都立公立小中学校のデジタル活用支援の取り組みに参加
	3Q	<ul style="list-style-type: none"> オンラインイベント「クレスコフェア2021」「Cresco Adventcalendar2021」を開催 「第2回日本眼科AI学会総会 眼科AIコンテスト」で当社社員が入賞 組込みシステム技術協会「ET & IoT 2021」で当社社員が講演を実施



基本戦略 コアビジネス領域をより強固なものに

ITサービスの拡大	1Q	・ 新規取引先開拓に向けた営業人員の増強
	2Q	－
	3Q	・ クレスコベトナムの開発体制を増強（技術者稼働数 … 2Q:60名 → 3Q:90名）
品質の強化	1Q	・ PMO日本支部主催「PMI日本フォーラム2021」で当社社員が講演を実施 ・ 車載組込みシステムフォーラム(ASIF)幹事会社へ選出
	2Q	－
	3Q	・ 品質・プロジェクト管理教育の刷新
技術の強化	1Q	・ 「次世代を担う人材育成支援およびAI技術に関する研究促進」で 北海道大学と協力を強化 ・ マイクロソフト社パートナー「Goldコンピテンシー」認定の取得
	2Q	・ 画像処理AI学習データ作成時のアノテーション作業負荷を軽減する手法の特許取得
	3Q	・ 名古屋大学と、組込みセキュリティに関する共同研究を開始 ・ 角膜形状解析画像の機械学習を用いた分類に関する論文を複数掲載

経営方針

■ 2030年度に向けた10年間の経営ビジョン



■ 「中期経営計画2023」の経営目標

連結 売上高	連結 営業利益	ROE
500億円	50億円	15%以上

対処すべき課題

1. 新規顧客の獲得および
お客様とのリレーションシップの強化
2. デジタルソリューションビジネスの拡大と
新技術の研究・開発
3. M&A・アライアンスの推進と
グループ企業に対する管理の強化
4. 人材採用と育成環境の拡充
5. DX推進と機動的経営の実現
6. 健康経営の推進
7. 働き方改革の推進と健全な労働環境づくり
8. 品質の強化
9. 生産性の追求
10. 開発に従事する人材の確保と体制強化
11. ダイバーシティへの取り組み
12. コーポレート・ガバナンスの推進
13. 事業ポートフォリオの最適化と

柔軟な組織経営

ご参考





1) 連結子会社の変遷

	2018年3月期				2019年3月期				2020年3月期				2021年3月期				2022年3月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
クレスコ・イー・ソリューション	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
クレスコワイヤレス	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
アイオス 【※2】【※6】【※8】【※11】	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
クレスコ九州 【※9】	●	●	●	●	●	●	●	●	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
クレスコ北陸	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
クレスコ上海 【※1】	●	●	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
シーサリー	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
クリエイティブジャパン	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
メクゼス 【※4】【※5】	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
エヌシステム	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
ネクサス 【※3】	/	/	/	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
アルス 【※7】	/	/	/	/	/	/	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
クレスコベトナム 【※10】	/	/	/	/	/	/	/	/	/	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
エニシアス 【※12】	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	●	●	●	●	●	●	●	●
OEC 【※13】	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	●	●	●	●
子会社総数	10	10	9	10	10	10	11	11	10	11	11	11	12	12	12	12	12	13	13	

【※1】 2017年9月25日付で「科礼斯軟件(上海)」は清算終了

【※2】 2017年10月2日付で「アイオス」は「(株)アプリケーションズ」を子会社化 (当社の孫会社)

【※3】 2018年1月12日付で「(株)ネクサス」を子会社化

【※4】 2018年3月12日付で「メディア・マジック」は「メクゼス」に商号変更

【※5】 2018年4月1日付で「メクゼス」は「アイオス 関西営業所」を統合

【※6】 2018年4月1日付で「アイオス」は「アプリケーションズ」を統合

【※7】 2018年10月1日付で「アルス(株)」を子会社化

【※8】 2018年11月1日付で「アイオス」は「イーテクノ(株)」を子会社化 (当社の孫会社)

【※9】 2019年4月1日付で「クレスコ九州」を統合

【※10】 2019年9月17日付で「CRESCO VIETNAM CO., LTD.(クレスコベトナム)」を設立
(営業開始は2019年10月1日から)

【※11】 2019年10月1日付で「アイオス」は「イーテクノ」を統合

【※12】 2020年4月1日付で「(株)エニシアス」を子会社化

【※13】 2021年7月1日付で「(株)OEC」を子会社化



2) 報告セグメントの変更

2021年4月(2022年3月期)から、報告セグメントを変更しました。

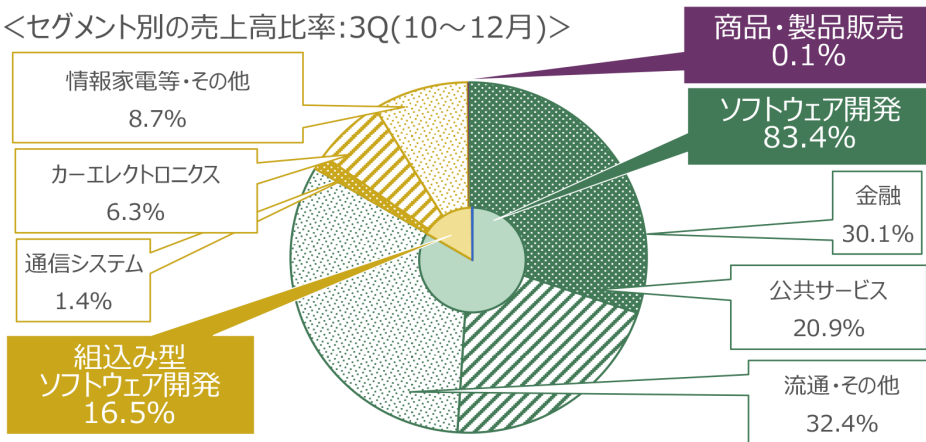
2021年5月10日発表

https://www.cresco.co.jp/news/newsr/2021/210510_ir.pdf



旧セグメント：2021年3月期 第3四半期

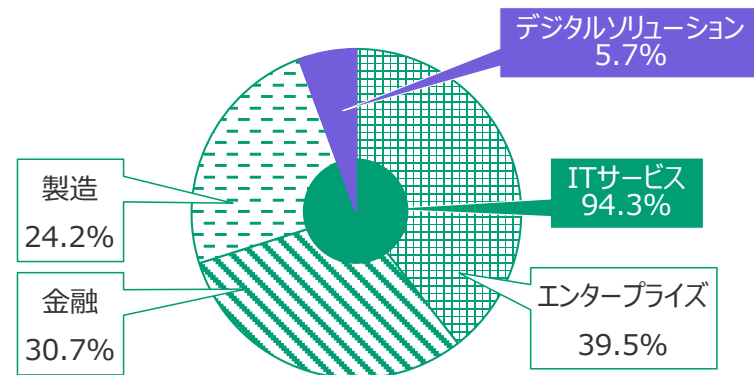
<セグメント別の売上高比率:3Q(10~12月)>



セグメント	事業	サブセグメント
ソフトウェア開発	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスアプリケーション開発 ・IT基盤システム構築 ・オリジナル製品・サービス 	<ul style="list-style-type: none"> ・金融 (銀行、保険、カード、証券 etc.) ・公共サービス (旅行、人材、物流、航空、鉄道、電力、放送、医療 etc.) ・流通・その他 (小売、不動産、情報通信、製造 etc.)
組込み型ソフトウェア開発	<ul style="list-style-type: none"> ・組込み型ソフトウェア開発 	<ul style="list-style-type: none"> ・通信システム (携帯情報端末 etc.) ・カーエレクトロニクス (デジタルメーター、センターディスプレイ etc.) ・情報家電等・その他 (デジタル家電、医療機器、制御システム etc.)
商品・製品販売	<ul style="list-style-type: none"> ・子会社「クレスコワイヤレス」の商品・製品販売 	

新セグメント：2022年3月期 第3四半期

<セグメント別の売上高比率:3Q(10~12月)>



セグメント	事業	サブセグメント
ITサービス	<ul style="list-style-type: none"> ・コンサルティング ・IT企画 ・開発・保守の総合サービス 	<ul style="list-style-type: none"> ・エンタープライズ (情報・通信、広告、流通サービス、運輸、人材紹介・人材派遣、公共、資源・エネルギー、建設・不動産、旅行・ホテル、医療・ヘルスケア、その他) ・金融 (銀行、保険、その他) ・製造 (自動車、輸送機器、機械、エレクトロニクス、その他)
デジタルソリューション	<ul style="list-style-type: none"> 顧客のDX実現を支援する製品・サービスからなるソリューション群 	<ul style="list-style-type: none"> 「Creage」、「インテリジェントフォルダ」、RPA 等



ご参考

3) 経営ビジョンと中期経営計画の詳細URL



「経営ビジョン」の詳細

<https://www.cresco.co.jp/corpinfo/vision/>



「中期経営計画2023」の詳細

<https://www.cresco.co.jp/ir/plan.html>



免責事項等

- ❖ 掲載内容については細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤り等によって生じた損害等に関し、当社は一切責任を負うものではありません。
- ❖ また、本資料は投資判断のご参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断において行われるようお願い申し上げます。
- ❖ なお、本資料における将来予測に関する情報および業績見通し等の予想数値や将来展望は、現時点で入手可能かつ合理的な情報による判断および仮定に基づき記述しております。
- ❖ 今後、リスクや不確定要素の変動および経済情勢等の変化により、予告なしで情報を変更したり、実際の業況や業績結果と大きく乖離するなど、本資料の内容とが異なる可能性もございます。予めご了承ください。

【 IRのお問合せ】

広報部 Mail : ir@cresco.co.jp

TEL : 03-5769-8058